



四神になぞらえた4会場で平城遷都1300年祭オープニングイベント

2010年、「平城遷都1300年祭」の開幕を告げる「平城遷都1300年祭オープニングイベント」が大みそかから元旦にかけて開催された。東西南北の方角を守護する「四神」になぞらえられた県内4会場、奈良公園（北・玄武）、信貴山朝護孫子寺（西・白虎）、室生寺（東・青龍）、金峯山寺（南・朱雀）では、5世代にわたる寅年の年男・年女20人が開祭を宣言。1年間にわたる平城遷都1300年祭の成功に向けての機運を盛り上げた。

玄武会場の奈良公園では、燈花会のろうろくが会場を照らし出し、奈良朱雀高校の「和太鼓秋篠」による和太鼓演奏や平城人（ならびと）のバサラ踊りなどが披露された。

青龍会場の室生寺では、伽藍が幻想的にライトアップされる中、五重塔初層の開扉や秘仏「五智如来」の特別開帳が行われ、来場者には「室生せんと鍋」が振舞われたほか、ステージでは「葦笛コンサート」「獅子舞」が催された。

今年の干支であるトラの寺として有名な白虎会場の信貴山朝護孫子寺では、秘仏毘沙門天王のご開帳や「和太鼓いかるが」による太鼓演奏、県内の「ゆるキャラ大集合」でひととき盛り上がった。

シタール演奏で幕を開けた朱雀会場吉野山の金峯山寺では、国宝・蔵王堂のライトアップや燈花会が催され、来場者には吉野仙人鍋が振る舞われた。

同祭は、「はじまりの奈良、めぐる感動」をテーマに、今年1年を通じ県内各地で様々なイベントが開催されるほか、メイン会場である平城宮跡で

は、第一次大極殿正殿や遣唐使船が復元され、4月24日から11月7日の間、企業や団体による展示やイベントが続く。
(山城 満)



奈良会場

室生寺会場



朝護孫子寺会場

金峯山寺会場



(写真提供：社団法人平城遷都1300年記念事業協会)

セミナーだより

●海外戦略セミナー（主催：株式会社南都銀行）

少子高齢化の進展に伴い国内食品市場の先行き不透明感が増しているなか、中国を中心とした周辺諸国の経済発展が進んでおり、食品関連企業の海外販路拡大を求めるニーズが高まりをみせている。

今回セミナーは、「食」に関する事業者等を対象に「食の国際化支援」にテーマを絞って行われた「海外戦略セミナー」で、テーマは「食品の海外輸入および中国拡販への取り組み」。

第一部では三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社のコンサルティング事業本部マネジメントシステム部チーフコンサルタント 岡本泰彦氏が「中国・食品安全法概要及び食品の拡販事情」を、第二部では同国際事業部コンサルタント 森下翠恵氏が「食品輸入のリスクマネジメント」の二部構成で行われた。

(2010.1.22 南都銀行西大寺支店にて開催)